

## 横浜赤レンガ倉庫が リニューアルオープン

昨年12月6日に、横浜赤レンガ倉庫(横浜市中区)がリニューアルオープンしました。

横浜赤レンガ倉庫は、国が横浜新港ふ頭整備の一環として明治末期から大正初期にかけて造った保税倉庫でした。1911年に2号館が、1913年に1号館が竣工しました。明治期を代表する建築家、妻木頼黄<sup>つまきよりなか</sup>による設計で、3階建てのレンガ造りの建物は、耐震性が施された組積造技術の最高段階を示す建築とされ、日本初の貨物用エレベーターや避雷針、防火扉を備えるなど、当時の建築技術の粋を集めた建築物でした。関東大震災での被災や終戦後の米軍による接収などの困難な時期もありましたが、長年にわたり横浜の発展に寄与してきました。

しかし、高度経済成長期に海上輸送のコンテナ化が進んだことで取扱量が激減、1989年までに倉庫としての役割を終えました。その後、横浜市が歴史的な建造物を残そうと、1992年に国から土地と建物を取得、約6年をかけて建物の修復・保存工事を実施しました。2000年には内部改修工事に着手、2002年に「横浜赤レンガ倉庫」として再スタートを切りました。1号館は400名を収容するホールや展示スペースなどの文化施設に、2号館は商業施設として生まれ変わりました。以後、横浜を象徴する施設として地域住民から内外の観光客まで幅

広い客層を集め、来館客数は2022年3月に累計で1億1千万人に達しています。

そして開業20周年を迎える2022年の5月、施設を休館して大規模な改修工事が行われ、経年劣化が進んだ外壁のレンガの交換や屋根瓦の防水・補修工事、空調設備や電気設備の更新などが実施されました。

今回のリニューアルでは「BRAND NEW “GATE”」をコンセプトとし、横浜赤レンガ倉庫を、横浜と世界、日常と非日常、過去と未来をつなぐ新しい扉“GATE”として位置付けています。リニューアル後にオープンしたのは新規出店25店舗を含む66店舗で、地元企業も20店舗が入っています。施設は来館客がより快適に過ごせる空間づくりに力が入れられており、フードコートのイートスペースの刷新やベットの可能なエリアの拡充、歴史的な展示スペースの設置や天井や壁面のライトアップなども行われています。1号館の文化施設では各種のイベントや展示会、美術展が開催されています。再オープンから1月末までに118万人が来場しており、施設運営側は年間650万人の来場を想定しています。倉庫前のイベント広場では、冬場はアートとスケートが一緒に楽しめる「アートリンク」が設営されるほか、2月にはStrawberry Festivalが開催されました。今後も魅力的なイベントが予定されています。皆様もぜひお立ち寄りください。



横浜を象徴する「横浜赤レンガ倉庫」



休日には多くの来場客で賑わう



リニューアルされた館内

### 施設情報

所在地 神奈川県横浜市中区新港1-1

公式HP <https://www.yokohama-akarenga.jp/>

電話 ホール&スペースについて(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団) 045-211-1515

商業施設について(2号館インフォメーション)

045-227-2002